茨城の絶滅危惧植物の概要

茨城県には延長 190km におよぶ海岸線，関東平野の北東部を占める平野部，北部には阿武隈山地の南部にあたる多賀山地，県内では最高峰の八溝山（標高 1022m）を含む八溝山地（八溝山塊，鷲子山塊，鶏足山塊，筑波山塊に区分），袋田の滝や渓谷を持ち急峻な崖などのある久慈山地がある。湖沼では県の約３分の１の面積を流域とする霞ヶ浦，汽水湖である涸沼，さらに牛久沼，菅生沼などが主なものである。河川の主なものは多賀山地の大北川，多賀山地と久慈山地の間を流れる里川，久慈山地と八溝山地の境をなす久慈川，栃木県から茨城県に入り県都水戸市を流れる那珂川，平地部には小貝川・鬼怒川が緩やかに流れ，県境をなす大河，利根川が県西部から南部に流れる。

気候的には平地から山麓部は温暖で，北部の山地は少し寒冷である。

日本列島の潜在植生の区分では，茨城県域は大部分が照葉樹林帯で，北部の山地や筑波山などの上部などが夏緑樹林帯に含まれることが一般的である。このような地形や気候のもとに約 2350 種類の維管束植物の生育が確認されている。これらの植物の生育地は現在の地形や気候の影響を強く受けているものから，どちらかというと，過去の水陸の分布や，今より温暖または寒冷な気候の影響が強いと思われるものまである。

しかし，これまで確認されてきた約 2350 種類のなかには，人間の活動により，その生育が強く影響を受け，生存そのものが危険になり，絶滅が危惧されている植物も多い。絶滅する原因の主なものとしては，開発などで生育地が破壊されて無くなること，管理放棄などにより自然遷移が進んで，その植物にとって生育環境が変化し，生育に適さなくなること，さらに人間が選択的に特定の種類を園芸用などに採取することなどがあげられる。

本県では絶滅危惧植物として 576 種が，さらに情報不足の種として 94 種を掲載した。

次にこれらの絶滅危惧植物の主なものについてその生育地を中心に記す。

筑波山塊（笠間市）

海岸（東海村）

〈海岸の植物〉

茨城県沖の海には北から親潮が，南から黒潮が流れ，植物の生育に大きな影響を与えている。海岸線の地形は比較的単調である。久慈川河口以北に海蝕崖が見られ，一部に砂浜が広がる程度である。南部の海岸は砂浜が広がり，那珂川河口近くに崖が見られる程度である。埋め立てや開発利用で大きく変化した海岸もある。

北部の海岸の岩礁域の海中には本州の太平洋岸では茨城県以南に知られるエビアマモが生えている。

砂浜には南方系のネコノシタ，ビロードテンツキと北方系のハマナスやシロヨモギの生育地がまれにある。ハナハタザオの生育地は限られている。カワラサイコ，スナビキソウ，ナミキソウ，ハマハタザオ，ハマボウフウ，ハマウツボの見られる海岸も少なくなっている。ハマビシは絶滅した。

海岸の崖地やその周辺には北方系のハマギク，コハマギクやマルバトウキが那珂川河口近くまで見られ，南方系のイヨカズラは少なくなり，日立市のハマホラシノブの生育地は消滅した。センダイハギは絶滅，ヒトモトススキの生育地も限られている。海浜植物ではないが，草地に見られたノジトラノオ，アズマギクの絶滅した場所もある。

海岸のクロマツやアカマツ林下にはまれにハマカキランやフジナデシコが点在している。海浜植物ではないが，ひたちなか市のアカマツ林下にはオオウメガサソウが群生し，まれにヒトツボクロ，ヤナギタンポポも見られる。また，このアカマツ林の林縁に生育するイヌハギは注目に値する。那珂川河口近くの崖の岩上にはイワレンゲが着生している。マツバランは神栖市と北茨城市の海岸近くで記録されているが，北茨城市の生育地は津波の後，確認できない。日立市のイブキ樹叢のイブキは，個体数が少ないので，今後が心配である。

海水の混じる河口部などの湿地に生えるウラギク，シオクグやオオクグもまれで，シバナは絶滅した。

海岸（北茨城市）

〈湖沼・河川・水田の植物〉

湖沼等の水環境は大きく変化し，特に沼，池の消失，水質の悪化，水田の耕作法の変化などで，水生植物，特に沈水植物の個体数の減少は極端で，貴重な種が絶滅した。霞ヶ浦ではムジナモ，ヒンジモ，ガシャモクが絶滅した。湖沼や流水等に生えるリュウノヒゲモ，トリゲモ，コウガイモ，ササバモ，ヤナギモ，クロモなどは少なくなり，水田等に生えるミズオオバコ，ヤナギスブタも減少し，特にトリゲモ類では絶滅危惧種が多い。浮葉植物では霞ヶ浦，北浦などのアサザの群生地は少なくなり，ガガブタも周辺の水路などに僅かで，トチカガミも生育地は限られているが，水路に群生していることが多い。オニバスやヒメビシのある湖沼はほとんどなく，ヒツジグサやジュンサイの見られる湖沼も少ない。池沼でもコバノヒルムシロやフトヒルムシロは少なく，コウホネは湖沼の沿岸部や小さな流れの中に残されている程度である。デンジソウの見られる水田は極めてまれである。

浮遊植物のサンショウモやオオアカウキクサは乾田化や湿田の耕作放棄などにより減少した。抽水植物ではミクリ類が減少し，タタラカンガレイ，シズイ，サジオモダカもまれである。ミズアオイは霞ヶ浦など南部の湖沼や周辺の水田地帯に生育し，時に小さな群生が見られる。

〈湿地の植物〉

湿地（稲敷市）

湿地も人間の活動により大きな影響を受けている場所である。県中央部以北の湿地は小さく，サクラバハンノキの生育している湿地は１か所で，イソノキ，ハシバミは中央部の湿地にややまれに出現する。かつてミコシギクの見られた湿地でも最近は確認されていない。湿地でも草丈の低い所にはヒナザサ，ヒメナエ，ミズユキノシタ，ヒメハッカ，ヒナノカンザシ，マルバノサワトウガラシ，ゴマクサなどの他に食虫植物のモウセンゴケ，ミミカキグサ，ホザキノミミカキグサ，ムラサキミミカキグサが見られる。周辺部の少し草丈の高い場所にはカモノハシ，ミズオトギリ，ヤマラッキョウ，ヌマゼリ，イヌセンブリ，ヒメコヌカグサ，オオイヌノハナヒゲなどがまれに見られる。カキツバタの生える池は少ない。サギソウの激減したのは相当以前のことである。もともと生育地が限られていたクロツバラやアズマツメクサは最近確認されず，トキソウや，やや湿った場所に生えるシランは極まれで，カキランも少なくなった。かつて湿った崖地にコモウセンゴケが群生し，一面が赤くなっていた所も今は確認できない。稲刈り後の水田にミズマツバなどが見られることがある。河川敷にコゴメヤナギの見られる所は少ない。

県南・県西の湿地は湖沼の周囲や河川敷にもあり，多くの湿性植物が確認されている。

霞ヶ浦と北浦周辺の水辺にはハタザオ，ニガカシュウ，セイタカヨシ，ハナムグラ，ミクリ，ジョウロウスゲ，カンエンガヤツリ，ホソバイヌタデ，タコノアシ，ミゾコウジュ，ミズネコノオ，ヤナギトラノオ，ミズアオイ，オオマルバノホロシなどが見られる。特に稲敷市浮島にある湿地には貴重な種類が生育している。主なものとしては霞ヶ浦の沿岸域で発見され，現在も他に生育地のないカドハリイは国レベルでも絶滅危惧ＩＡ類に指定されている。他にノウルシ，ナガボノシロワレモコウ，エキサイゼリ，ヌマアゼスゲ，アサマスゲ，ヌマクロボスゲ，マシカクイ，オオイヌノハナヒゲ，ヒメシオン，ミズチドリがあり，カモノハシは広い範囲に群生し，オオクグの記録もある。霞ヶ浦周辺ではイトハコベが絶滅している。

小貝川の河川敷や菅生沼，利根川の河川敷などを中心とする湿地にはアゼオトギリ，コイヌガラシ，クロツバラ，タチスミレ，シムラニンジン，ヒメアマナ，マイヅルテンナンショウ，カガシラ，トネハナヤスリ，アズマツメクサ，ナガボノアカワレモコウ，エキサイゼリ，チョウジソウ，キタミソウ，ホソバオグルマ，トネテンツキ，ヒキノカサ，ノカラマツ，ハナムグラ，ゴマノハグサ，ホソバイヌタデ，ヌカボタデ，ノウルシ，ゴマギ，フジバカマ，アワボスゲ，ヤガミスゲなど貴重な植物が林下や草地に残されている。池沼

湿地（小美玉市）

の周辺の裸地や水田にも見られるホシクサ科植物には絶滅危惧種が多く，ヒロハノイヌノヒゲ，クロイヌノヒゲ，ホシクサ，イトイヌノヒゲ，ヤマトホシクサ，クロホシクサ，シロイヌノヒゲ，ニッポンイヌノヒゲなどがある。下妻市の砂沼には野生では絶滅し，最近再生が試みられているコシガヤホシクサがある。

〈平地の植物〉

平地部にはかつて薪炭林とされ，農業用の落ち葉などの採取が行われた落葉樹林があるが，最近は管理が放棄され，キンラン，ギンラン，オミナエシ，ハバヤマボクチ，クチナシグサなどが個体数を減少させている。照葉樹林やスギやヒノキのよく成長した林や林下にはホソバカナワラビ，アマクサシダ，ヒカゲワラビ，ヘラシダ，メヤブソテツ，アリドオシ，イズセンリョウ，オキナワジュズスゲ，ムサシアブミ，ホトトギス，エビネ，キジョランなどを見ることができる。鹿嶋市のモミ林下で古くヒメフタバランが記録されている。同地のクモランも最近は確認されていない。

河畔林（下妻市）

人家近くではトキホコリが庭のすみに，イヌノフグリが古い石垣の隙間に，霞ヶ浦の堤防にはヒナギキョウが点在し，古くからの集落の道路沿いにまれにクマツヅラが生育している。山麓近くの道路の斜面にマルバダケブキが群生する場所は限られている。水田近くの斜面にカザグルマやバアソブが生える地域は少ない。台地斜面の崖地にキクタニギクを見るのも少なくなったが，まだ山地部では見ることができる。水の湧くような台地斜面にはまれにルリソウが見られる。

河畔林（下妻市）

〈丘陵地・山麓の植物〉

本県の丘陵地や山麓部は温暖で，本県を太平洋側の北限地とする植物はこの地域に多い。照葉樹林が狭いながらも山麓部などに残っており，ここにはリンボク，ツクバネガシ，カゴノキ，クロガネモチなど常緑広葉樹で高木になる種が生育し，林下にコジキイチゴ，ミヤマトベラ，ヒカゲツツジ，アリドオシ，オオアリドオシ，フユザンショウ，イズセンリョウ，キジョランなどがまれに見られる。草本類ではオニイノデ，ヌリトラノオ，ナガバノイタチシダ，ノコギリシダ，オニヒカゲワラビ，オオバノハチジョウシダ，サイゴクベニシダ，クリハラン，コバ

ノイシカグマ，オオバチドメ，ツルギキョウ，ヒイラギソウ，ヤマホオズキ，ハイチゴザサ，フウラン，カヤラン，ウスギムヨウランなどのムヨウラン類も生育している。しかし，クマガイソウ，ヒタチクマガイソウなどは現在はほとんど見られない。多賀山地の石灰岩地にはまれにイワツクバネウツギの生育が見られる。

山麓部の沢にはサワルリソウ，オオハシカグサ，タカクマヒキオコシの群生，ムカゴネコノメが見られ，まれにイヌアワなども生育している。

草地の面積は狭く，遷移も進みやすいので，生育している植物には常に注意する必要がある。オキナグサ，マツムシソウは絶滅に近く，マツバニンジン，ヒナノキンチャク，ムラサキ，タカサゴソウ，ヒメヒゴタイ，ミヤコアザミ，カイジンドウ，ヒオウギも心配である。オミナエシ，キキョウ，タチフウロ，ヒゲシバ，ヤマジソ，コガンピ，キクアザミ，ホタルサイコも個体数を減らしている。

照葉樹林（鹿嶋市）

〈山地の植物〉

茨城県で山地部を代表する林はブナ林であるが，現存するブナ林の面積は狭く，北部の花園・小川地区から竪割山，男体山，八溝山，花瓶山，仏頂山，吾国山，加波山，筑波山などの山頂部に林が見られる。佐白山，御前山，西金砂山などのブナの生育地の標高は低く注目される。山地部はスギなどの植林地が目立ち，夏緑樹林は少なくなり，各地に保護林として残されている夏緑樹林は貴重である。

夏緑樹林（八溝山）

夏緑樹林の樹木ではオオイタヤメイゲツ，シナノキ，シロヤシオ，サラサドウダンなどの個体数は少ない。ダケカンバは八溝山に，ウダイカンバは高萩市などに生育している。ミヤマザクラは筑波山にのみ知られている。急峻な場所や尾根筋にヒメコマツやツガが残っている所がある。シラカンバは多賀山地に林が見られるが，時に平地部に単木が見つかることがある。エドヒガン，オノオレカンバは八溝山地に，ヤマグルマは久慈山地にまれである。沢沿いにチョウジザクラが見られるのも久慈山地である。

男体山（大子町）

林下に生育する低木などではクロカンバ，アズマシャクナゲ，ナンキンナナカマド，ツクバグミ，キバナウツギの個体数は少ない。またスギラン，ヤシャビシャクなど大きなブナに着生する植物は極めてまれである。ハヤザキヒョウタンボクやアイズシモツケは奥久慈に，コウグイスカグラは久慈山地や筑波山塊にまれである。

夏緑樹林下の草本植物の種類は比較的多いが，そのなかでも，シラネワラビ，ヤマシャクヤク，レンゲショウマ，ハナビゼリ，オオカニコウモリ，タマガワホトギス，マイヅルソウ，ヒメマイヅルソウ，コケイラン，コアツモリソウ，アオフタバランなどは貴重で，各種とも個体数は少ない。ブナなどの樹幹に着生するミヤマノキシノブ，ホテイシダも少なくなった。多賀山地にはアスヒカズラ，クルマバハグマ，イワキハグマ，ミヤマツチトリモチ，ヨツバヒヨドリ，コフタバランがあり，久慈山地とその近くにはエビラシダ，ギョウジャニンニク，マルミノヤマゴボウ，マルミノウルシ，ハクサンハタザオが生育し，八溝山にはカリヤスモドキ，雨巻山にヒメシャガ，筑波山ではナンタイシダ，ヒナワチガイソウが知られる。

山地部の沢沿いにはイワネコノメソウ，ハシリドコロ，ヒトツバテンナンショウ，イワセントウソウ，オオモミジガサ，シロバナエンレイソウなどが見られるが，生育地は限られている。ナンブワチガイソウ，コミヤマカタバミ，ギボウシランが見られるのは多賀山地，八溝山塊にはヤワタソウ，筑波山塊にはヤマトグサ，サワダツが見られる。

山地部の草原は少なく，さらに管理放棄や遷移が進んで面積は狭くなっている。タチコゴメグサ，アツモリソウ，ノビネチドリは絶滅とされ，コウリンカ，サクラスミレ，ヒメスゲが少なくなり，ゼンテイカは少ないが県北の海岸部にも見られる。

山地部の湿地ではリュウキンカは絶滅とされ，コキンバイの生育地は限られ，ミツガシワも現在は１か所しか生育が知られていない。他にシキンカラマツ，エゾツリスゲ，ニッコウシダ，ハンゴンソウ，オオニガナ，ノハナショウブ，サワシロギク，コオニユリなどが見られる。周辺部からの樹木の進入もあり，小さな湿地の植物は生育が危ぶまれることになる。クリンソウの湿地も心配である。

山地部の渓谷岩上には山麓部からのつながりもありキヨスミコケシノブ，カタヒバ，サジラン，ヒメサジラン，オオクボシダ，オクタマシダ，シシラン，ハイホラゴケ，アオホラゴケなどがまれに見られる。

山地部の岩上には限られた植物が見られイワヒバ，イワオモダカ，コガネシダ，コメツツジ，キンレイカ，ミヤママコナ，ツクバスゲ，マメヅタラン，ウチョウラン，ヒナランなどがある。特に久慈山地の大きな岩崖には県内の他の地域では見られない植物も多い。そこにはフクロダガヤ，アオノイワレンゲ，オオチチッパベンケイ，キバナカワラマツバ，ヤハズハハコ，ミヤマスカシユリ，イブキジャコウソウ，エゾノヒメクラマゴケなどがある。　（写真：安）